

《担当者名》○武田涼子 r-takeda@hoku-iryo-u.ac.jp 岩部達也 澤田篤史 小島悟 鈴木英樹 吉田晋 高橋尚明 大須田祐亮 佐々木祐二 長谷川純子 山根裕司 佐藤一成 多田菊代 只石朋仁 中村宅雄 阿部隆宏 谷口翔平 用田歩

【概要】

本実習は、これまでに学内で学んだ理学療法の基本的検査・測定について、臨床実習指導者の指導・助言のもと、協同参加（参加率25%以上50%未満）により理学療法の対象者に正確に行えることを目標とする。また、基本的検査・測定をできるだけ多くの対象者に実施する機会を得ることで、理学療法士として必要なスキルの向上を目指す。さらに、理学療法場面を見学する中で、検査・測定で得られた結果と実践されている理学療法とのつながりを学び、総合臨床実習に向け理学療法の理解を深めることを目的とする。

【学修目標】

的確な理学療法を実施臨床するために、各種検査法を理解し、疾病、障害を持った対象者に実施することができる。

1. 指導者が実施している基本的検査・測定技術について協同参加（参加率：25%以上50%未満）にて実践することができる。
2. 指導者が実施している疾患別検査・測定技術について説明のもとに理解することができる。
3. 指導者が考えた理学療法における認知プロセスについて説明のもとに理解することができる。
4. 指導者が実施している基本的治療技術（低リスク）について見学し、説明を受け理解することができる。
5. 指導者が実施している基本的治療技術（高リスク）について見学し、説明を受け理解することができる。
6. 医療従事者を目指す学生としてふさわしい行動ができる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|-------------------|-----------------------------------|----------------------|
| | オリエンテーション | 臨床実習の日程、進め方、課題とその提出、評価の仕方について理解する | 武田涼子 岩部達也 澤田篤史 |
| | OSCE（実習前） 筆記試験 | 主に理学療法評価手技に関するOSCEを実施する | 全担当教員 |
| | 臨地実習 | 医療機関もしくは保健福祉施設において実習を行う | 臨床実習指導者 |
| | OSCE（実習後） | 臨床実習の成果を図るためのOSCEを実施する | 全担当教員 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験 20%

実習に関わる提出物 10%

実習体験ノート 30%

OSCE(実習後) 40%

【備考】

「臨床実習の手引き」を熟読し、必要な準備をすること。

関連する各講義の資料や教科書等を用いて、実習前に十分な事前準備を行うこと。

【学修の準備】

「臨床実習の手引き」を熟読し、必要な準備をすること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

（DP5）国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を

実践できる能力を身につけている。

【実務経験】

全教員（理学療法士）